

芭蕉蔵

優秀作品発表

第15回

兼題「蟻」の部

特選第一席

はぐれ蟻宝の山を見つけたる

横浜市

吉田みち

特選第二席

蟻塚をこはしにこはし少年期

習志野市

本城宏基

特選第三席

蟻走る原稿締め切りまでわづか

調布市

水谷友二

【講評】

今回の兼題「蟻」では同じような句が多数見られました。蟻の寡黙さ、真面目さ、その列の様子等を表現しようとする、どうしても似たような作品になるようです。本来はそこから作者の腕の見せどころ。入選以上となるためには、何らかの自分の見方、あるいは自分なりの表現が必要です。一句が出来上がったら、そこに自分らしさが表れているかどうかを見直し、十分推敲してみてください。

特選第一席、蟻という列をなして移動するという印象がありますが、確かに列から離れて歩くものもあります。そういう蟻が先んじて餌を見つけたのです。その餌を「宝の山」と表現した点に獨創性があります。もしかすると人間界にもあり得ること……と想像が広

がる作品です。

第二席、少年期特有の鬱屈した心理とそれに伴う子供らしい残酷性を描き出しました。蟻塚を壊すことで発散するフラストレーション、一方の蟻塚はまたすぐに元に戻されてしまうのかも知れません。でも、そんなことを繰り返して少年は成長していくのでしょうか。夏らしい、映像の見える作品です。
第三席、蟻と原稿は本来関係がありません。でも、蟻が懸命に走っている様子と、迫り来る原稿締め切りとを並べられると、蟻も原稿を書くために急いでいるような、また原稿を催促に来るかのようなユーモアがあります。さあ、頑張って書き上げてしまってください！

【入選】

地の中は高層階か蟻の道	松戸市	新井弘子
校庭を縦横無尽蟻の列	練馬区	伊藤たか子
雨降りて蟻の巣のなかばかり	松戸市	加藤浩雲
翅運ぶ強き絆や蟻の列	伊勢原市	中本萬里
日曜日働き蟻と言ふ重石	千代田区	野尻正雄
バグ犬の首傾げある蟻の列	千葉市	馬場由紀子
魚沼の天空のもと蟻歩く	台東区	目崎純子

【添削例】

大蟻や足踏ん張つて大荷物 (原句)	←	手のひらに蟻を遊ばすピアスの子
蟻の列足踏ん張つて大荷物 (添削句)	←	ピアスの子手のひらに蟻遊ばせて
蟻の巣の迷路に似たり青春期	←	夏来たる水進む蛇口より
蟻の巣や迷路の中の青春期	←	夏来たる蛇口より水送り
蟻の列小さな一歩踏みしめる	←	鯉のぼり命を風に貰ひけり
それぞれの小さな一歩蟻の列	←	鯉のぼり風が命を吹きこめる
蟻の列横切り兼ねて浮母車	←	父なつかし新茶の頃とはなりにけり
乳母車横切り兼ねて蟻の列	←	父のこと思ひ出したる新茶かな

自由題の部

特選第一席

水仙や人は誰でもナルシスト

仙台市 中澤敏泰

特選第二席

ガリ版の山岳部報曝書せり

松戸市 加藤浩雲

特選第三席

懐妊の知らせ長々籐寝椅子

東久留米市 夏目 忠

【入選】

屋上で背伸びする子や夏来る

練馬区 伊藤たか子

新緑の香れる茶屋の抹茶かな

文京区

小池仁郎

山笑ふけふもきのふも会ひました

仙台市

中澤園子

笑はれて嬉しき汗の前座かな

千代田区

野尻正雄

夏霞早くも父の三回忌

台東区

目崎純子

朴散華祈りは天にとどきしか

習志野市

本城宏基

海までの石段狭め七変化

横浜市

吉田みち

【講評】

特選第一席、水仙の花の可憐さを見ていてふと思いついたのでしょうか。ギリシア神話の美青年・ナルシスは水面に映る自らに恋をして命を落とし水仙になったと言います。冬の殺風景な中で咲く水仙は確かにナルシストのようには思えてきます。取り合わせを巧みに用いて人間の一面を詠んだ作品です。第二席、学生時代の懐かしい山岳部の部報。虫干しをするために本を整理して出て出てきたのかも知れません。

ガリ版という言葉があるため、読者は部報を具体的に想像することになります。五個所に配された濁音が夏の力を感じさせています。第三席、娘から届いた懐妊を知らせる手紙でしょう。長々と、またこまごまとその喜びが綴られているのです。それを読む父親の喜びもまたひとしお。「籐寝椅子」が涼しさと心地よさ、そして喜びを表現する小道具としてとてもよく働いています。

応募方法

- 1 応募用紙を明治大学ホームページからダウンロードするか、あるいはA4用紙に次のことを記載の上、郵送・ファックス又はメールで応募してください。
【明治大学ホームページ 芭蕉蔵アドレス】
<http://www.meiji.ac.jp/koho/meiji/bashokura.html>
※「芭蕉蔵」のページへは、大学ホームページのトップページ右上にある検索バーに「芭蕉蔵」と入力すると、アクセスすることができます。
- 2 未発表作品に限ります。
- 3 自由題と兼題のそれぞれ2句まで応募できます。応募は無料です。
- 4 自由題と兼題、どちらかを○で囲む、あるいは記してください。
(1枚の用紙に自由題と題詠の併記は不可)
- 5 住所・氏名・電話番号・作品等、必要事項を記入してください。
※ペンネーム(併号)の場合も、必ず本名を併記してください。
- 6 文字は楷書で記してください。
- 7 応募作品は返却しません。
- 8 特選に選ばれた方には特製図書カードを贈呈いたします。

応募先 明治大学経営企画部広報課 芭蕉蔵係
〒101-8301 東京都千代田区神田駿河台1-1
TEL03-3296-4083 FAX03-3296-4087
MAIL koho@mics.meiji.ac.jp

次号兼題「秋思」 8月15日必着



選句・講評
西山 春文

「狩同人」俳人協会幹事
日本文藝家協会会員
本学商学部教授